

世界を結ぶ通信技術の進歩

なつかしの赤・青・白

私が中学生の頃、外国との通信はair mailと印刷された赤、青、白の枠取りのある特別な封筒に手紙を入れ、外国に送ったものだった。着くまで2週間、返事が来るまで2週間だったような気がする。電話?そんなものは自宅に無かった。当時は電話を引きたくても電話債のようなものを購入し、更に待つこと1年、ようやく電話機が来る。もちろんダイヤル式、番号のある穴に指を差し込み、回して相手の番号にかける。電話機の色は黒一色、なんか懐かしいじゃないませんか?

大学生の頃になると、テレックスと言う通信手段が登場、紙テープのもののようなものに穴があき、その穴の開き方で内容を解読する。しばらくして、ファックスなる機械が出始めた。原稿などそのまま相手先の電話番号に送ること出来るようになった。1977年ごろ(?)アップル社のコンピューターが登場した。タイプライターに取って代わる革命がおきた。あれから40年、コンピューターの登場による社会への貢献は想像を絶するまでに至った。携帯電話の発達と相まってスカイプやラインなどITを駆使し、世界中の多くの人と話せるようになった。更に相手が1人だけではなく、10人でも20人でもいっぺんに話せるようになった。それも画像付で、。

この様な発展が世界中に広がっているのに、私は蚊帳の外にいた。ケニアの事務所でのコンピューターのOSはまだまだXP、MS Officeは海賊版、これでも事務所での書き物に一向に不便を感じていなかった。さすがに自宅ではWin7やWin8、Office2007あるいはOffice2010を使っている、これだって時代遅れであることは薄々承知していたが、新しいOSをインストールするには時間がかかる。結局そのままの状態が続いている。

トラブル続出!

ところが、釧路の宮城島先生から師走講演会を釧路・根村・ナイロビを結ぶ3元中継で開催したいと連絡が入ってきた。話を宮城島先生から聞いてもスカイプに毛の生えたようなものくらいにしか感じていなかった私は。コンピューターの性能、カメラの性能、送受信のスピード、などまったく頭になかった。ケニアにはサファリコムという電話回線を利用したインターネットサービスがある。さらに、イルファーケニア事務所建物のオーナーはWiFiを設置している。これで安心だと高をくくっていた、しかし、練習をしてみると、一向に

つながらない、たとえつながっても、声が途切れたり、画像がコマ送りさながらの状態、担当のU先生は、肝を冷やしていたのであろう。

Eメールで“先生、始まってますけど、どうなってますか?”という言葉が飛んできた。そこで、“どうしてもつながらないんです”としか返事が出来ない。コンピューターはWiFiを受け取れるほど新しいものではなかった。つまり化石に近いコンピューターであった。そこでスタッフのムワジュマの携帯電話がWiFiにつながるといって試してみた。何と、ちゃんとつながるではありませんか、。スクリーンが小さいので見づらい点はあるけど、通信が出来るじゃありませんか、。私の事務所です使ったコンピューターは今の携帯電話機と比較してゴミのようなものであることを思い知らされた瞬間である。

WiFiの速度も関係しているということで、数箇所WiFi回線を持っている方のお宅にお邪魔して、回線を使わせていただいた。ベストの場所は毎週往診に出かけているエイズ孤児施設が一番早いことがわかった。それでも、あまり改善がみられなかった。お〜〜〜っ、コンピューターのRam容量や、CPUの速度も関係してるかな、調べてみると情けないほど低容量、これではやっぱりだめなのか、。。。。



特別講師 from NAIROBI

いなだ
稲田 頼太郎

イナダーラングエイズ研究財団
ILFAR 代表

NAIROBI

つながるのか? 釧路とナイロビ!

リモートセミナーの期日は迫り、ストレスが溜まる一方だった。そこで今度は最新のコンピューターを持っている人探しになった。数人にあたり、ようやく探し当てたが、エイズ孤児施設でやるためにはその日コンピューターを借りなければならない。しかし、リモートセミナー当日までそのコンピューターを使って練習は出来ない。ぶっつけ本番であった。最悪の場合を考えて、スタッフのムワジュマと一緒に来てもらい、彼女の携帯電話を使ってするしかない、。。。

本番30分前、コンピューターのスイッチを入れる、U先生からの指示に従い、サイトに入る、音声はちゃんと行き来できるようだ、画像もはっきり見える、念のため講演用のスライドは前もって占部先生に送ってあった、。。。それでも落ち着かない、ムワジュマがいろいろなサジェスションをしてくれたが、耳に届いていない。これどうもいかなかったら、皆さんに大迷惑をかけることになってしまうということばかりが頭の中をよぎっていた。あ〜、情けなや、情けなや、。日本であれば、Zoomが良いとか、他のほうがよいとかのレベルで話が進むのであろうが、ここケニア、いや、コンピューターは化石レベル、そもそもWiFiが何たるかも知らず、引き受けてしまった稲田老の低知識レベル、何もなくても生きていけるケニア人の生活に底なしにドブ漬け浸かってしまっていたようだ。

あと10年がんばります

それにしても、宮城島先生からのオファーが無ければ、今もって何も知らないままで他人事、ケニアであの世に行っていたのだろう、。いや刺激になりました。と、いうことは、私にはまだやる気があるってことですね、よかった、。。。あと10年は頑張れるかも、。いや、頑張ります。

リモートセミナーに参加していただいた全ての皆様、よくぞ歯の抜けた、空気の漏れる私の話を聞いていただき、本当に有難うございました。次回は歯をちゃんと治しておきます。

このような情報交換が出来るような時代に生きていられたこと、それを利用する機会に恵まれたこと、本当に早くコロナ感染拡大が収束し、日本中を、世界中を自由に動き回れる時が来ることを願わずにはられません。宮城島先生、U先生そしてイルファー釧路のスタッフの方々、ご苦勞様までした、そして有難うございました。

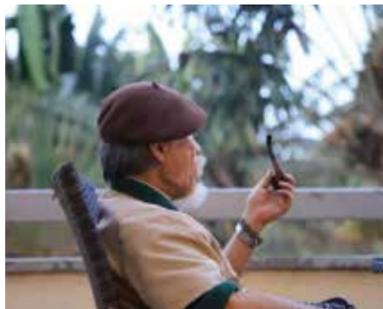


ケニア西部劇展開準備中!

さてこのコロナ感染拡大の中のケニア、ただ“X玉”握ってじっとしているわけには行かない性分の私、ケニアで“西部劇展開”の準備を始めることはセミナーでご報告しました。3月始めに西部に幌馬車ならぬ小型飛行機で出かけ、ミゴリ郡政府衛生局の幹部と話を持つことが出来ました。非常に興味があるとの返事でしたが、トップの親分は軍司令官の天下り、実際のエイズ対策アドミニストレーションは彼の部下、現場を良く知る医療者との話し合いは、きわめて友好的でした。西部地区でいまだに新感染者が多い中、何をしなければならぬかを熟知している担当者でした。ただ、アドミニストレーションのスタッフは、自分たち個人の利益になるかならないかにプライオリティーがあるのではないかと感じたのは私だけではなかったようです。さらに、行動反応が遅い、。。。。、ナイロビも遅いけど、さらに2重にも3重にも輪がかかった遅さ、。。。。あいつら“みつわ”石鹸のまわし者??これじゃ新感染者が多いのは当たり前と感じました。新感染者が増えることへの憂いより、新感染者が減って、自分達の仕事がなくなってしまうのではとの憂いが一番なのかもしれません。まったく、もう、。。。

それでも、西部劇を考えてしまう稲田老がナイロビにいます。ず〜〜っといまよ。更なる挑戦を続けます。1週間ほど前、ナイロビ郡を含む近隣5郡のロックダウンが解除されました。動きを広げられそうです。

皆様、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



REMOTE
KUSHIRO
YOKOHAMA